



SICS内に地域力連携拠点を開所



産業情報支援センターの運営組織である(株)西条産業情報支援センター(愛称:サイクス)の各種情報をお知らせします。

今月は、市内企業を紹介する「我が社の得意技」やサイクス内に開所された「地域力連携拠点」についてお知らせします。

我が社の得意技 ⑬

クリーンメカニカル株式会社 (港)

■得意技は高度な技術開発

「人のためになるものを製造したい。経営は簡単にはいかないが、ロマンと意地が私を支えてくれます」とクリーンメカニカル(株)・丹誠一會長は語る。

クリーンメカニカルは平成11年に大阪で創業。サイクスインキュベーター室に入居後、平成17年に現在の場所へ新工場を建設し、本社を大阪から西条市へ移転した。

現在、クリーンメカニカル

が力を入れて開発に取り組んでいる事業の一つが、燃料油に水をかき混ぜることで燃料コストを削減し、大気汚染の原因となる窒素酸化物等の発生を抑制するエマルジョン燃料を製造する装置の開発である。「開発のきっかけとなったのは、サイクスの山内尚隆取締役からの提案だった。山内取締役には大変感謝している」と丹會長は話す。また、



▶ 技術開発への思いを語る丹會長(左)と邨田社長(右)

去る5月には、茨城県つくば市で開催された世界機械工学会会で、エマルジョン燃料に関する東京工業大学との共同研究発表を行うなど、クリーンメカニカルは、高度な技術開発に欠かせない産学官のつながりを重視している。



▲ 開発中のエマルジョン燃料製造装置

■技術力を支える社員教育

「下請けを脱して、小さくても次のステップを作り上げることが私の思いでしたが、これは本当に大変なことでした」と丹會長は語る。現在では、大手製薬メーカーとの直接取引を行うまでに成長したが、脱下請けから自立までの道は厳しかったという。

丹會長は、人材が会社を支える根幹であるとの認識のもと、月1回は社内セミナーを開催し、社員教育に力を注いでいる。また、工学系の社員だけでは世界に通用する企業にはなれないと、理学系や文系の社員を採用し、社内バランスも重視している。

「世界に通用する西条発の技術を発信するのが私のロマンです」丹會長の熱い思いは世界へとつながっている。

(レポーター…技術相談室
チーフアドバイザー 林)

サイクスからの事業報告

「地域力連携拠点」を開所

サイクスでは、経済産業省が平成20年度から新たに実施する「地域力連携拠点事業」の委託を受け、5月30日から関連業務を開始しました。

地域力連携拠点事業とは、日本の強みである「つながり力」を更に強化し、経営力の向上や事業承継などの中小企業が直面する課題に対して、ワンストップできめ細かな支援を行うものです。

サイクス内の「地域力連携拠点」には応援コーディネーターが常駐し、他の産業支援機関などと連携することで小規模事業者などが抱える「経営力の向上」「創業・再チャレンジ」などの経営課題を積極的に支援していきます。皆さま、お気軽にご相談ください。

(応援コーディネーターは、次の3名です)

○津田雄造 ジェネラルマネージャー

○松本義彦 コーディネーター
○山田佳功 コーディネーター